

2021 年度 NBRP ゾウリムシ運営委員会（1 回目） 議事録

日時：令和3年10月26日（火） 10時00分～12時00分

場所：Zoom 会議

出席者（敬称略）：

運営委員：

児玉有紀（委員長、島根大学）、芳賀信幸（副委員長、石巻専修大学）、柳明（石巻専修大学）、岩井草介（弘前大学）、高橋三保子（筑波大学）、道羅英夫（静岡大学）、保科亮（長浜バイオ大学）、小林優介（茨城大学）、岩本政明（日本大学）、藤島政博（課題管理者）、度会雅久（山口大学）

欠席者：西上幸範（北海道大学）、杉山峰崇（大阪大学）

オブザーバー：辻山隆（文部科学省）、齋藤正明（文部科学省）、本間棕（文部科学省）、古田和輝（文部科学省）、鈴木智広（国立遺伝子学研究所）

陪席者：橋理人（山口大学）、大濱三沙子（山口大学）、村上理子（山口大学）、清水隆（山口大学）、渡邊健太（山口大学）、鍵谷征範（山口大学学術研究部）、未益亮太（山口大学学術研究部）、藤井大輔（山口大学共同獣医学部）

議題

1. 出席者紹介

藤島委員から、参加者全員の紹介が行われた。

2. 報告事項

(1) 2020 年度活動報告と 2021 年度中間報告

藤島委員から、資料4～8に基づき、中核的拠点整備プログラム「ゾウリムシリソースの収集・保存・提供」の2020年度の活動報告と2021年度の中間報告があった。報告の主な内容は次のとおりである。

- ・提供数は、2020年度、2021年度と目標値を達成できていない。コロナの影響で

研究活動が低下していることが原因と考えている。

- ・利用者数は、第3期から目標値を達成できていない。2019年度までは、順調に伸びていたが、2020年度にコロナの影響で減少に転じた。2021年度は、利用者にダイレクトメールを送り利用を促し、少し盛り返してきた状況である。
- ・2020年度、2021年度とも、細胞内寄生・共生、細胞毒性試験・水の浄化、繊毛運動・行動の論文が多い状況。
- ・論文数は、第3期から毎年度1桁の状態。成果論文数の伸びが少ない、利用者数が少ないと指摘を受けている。時間がかかると考えているが、利用者数を増やす努力はしている。
- ・コロナの影響で対面での学会が減り、広報活動も以前より回数が減っている。

(2) その他

なし。

3. 協議事項

(1) 第5期 NBRP への申請の準備状況について

藤島委員から、第5期 NBRP への申請に向け、現在の準備状況の確認及び運営委員から意見をもらうことで、構成のパワーアップをしていただきたい旨発言があり、度会委員（次期課題管理予定者）から準備状況の説明のあと、意見交換が行われた。

説明及び意見交換の内容は次のとおりである。

- ・公募があり次第、申請書が作成できるよう体制づくりの準備をすすめている。
- ・事後評価ヒアリングの際、若手の育成がなされていなかったと指摘を受けている。解決には、大学院生の育成や若手研究者の交流が必要と考えている。
- ・研究者個人でできること、大学でできること、コミュニティでできることについて、委員の皆様の意見を伺いたい。
- ・大学院生は、ゾウリムシだけでなく一般的に必要なが、理学系の博士後期課程学生がかなり少ない。各大学で大学院生を増やす努力が必要である。
- ・事業継続には、系統保存が最も重要。株を維持するための体制づくりも重要。次期に誰が参加し、誰が何をするのか。バックアップ協力者は所属機関の承認が必要。早

めの準備が必要である。

- ・系統保存にあたり、株名の間違いをしないように意識した。株に優先順位をつけることも大事。
- ・重要株は複数の箇所で、バックアップしながら維持することが必要。自然災害だけでなく、人為的ミスがあった場合でも復元できるように。
- ・NBRP ソウリムシと利用者の研究室で使用する培養液が異なる。その際の移行方法をアドバイスできるとよい。
- ・課題管理者と課題実施体制のチームと運営委員会の委員は、密に連携することが重要。そうすることで個々の労力は減る。
- ・研究テーマに応じた培養方法や維持方法は遠慮なく、尋ねていただきたい。連絡いただければ、共有できる。
- ・標準株と利用推奨株を定めたが、積極的に使っていただきたい。また、近交系をつくる協力をお願いしたい。
- ・保存数は目標値に達成しているが、かなりの数がある。メリットもあるが、労力も増えるので、バランスを考える必要があるのでは。
 - 最初は、まずは良い株を増やしたいとの思いで、保存数を増やしてきた。重要ではない株は、整理する時期に来ていると思う。よいものを残すことが大事。
- ・収集した株は、提供者から情報はもらうが、必ず確認を行うこととしている。
- ・遺伝的な多様性を知りたいので多くの種類の株が欲しい。
 - ソウリムシは寿命があるのでホームページでデータベースを公開しても、頻繁に更新する必要がある。そのためすべてのデータベースで公表していかない。希望の株があれば相談いただきたい。
- ・第4期は、「希望を受け希望に答える形で様々な株を提供する」コンセプトで実施してきたが、第5期はどうするのか。
 - 第4期と同じコンセプトでやっていきたい。
- ・運営委員会委員は、利用者の代表者からなっている、どんどん意見を言っていただき、改善案の提案等行っていただきたい。それが課題管理者を助けることになる。
- ・培養液も運営委員で協力してよいものを共有し、課題管理者に共有いただきたい。

(2) その他

- ・クレジットカード払いについて

検討事項として、他のNBRPでの導入事例を基に調べてきた。国内の利用者はクレジットカード利用手数料分が金額に上乗せになるため、利用希望者はないが、海外の研究者にはメリットあると思われる。海外研究者の利用者が増えれば、導入する価値がある。

- ・MTAについて

MTAの所属機関長の押印をなしとすることができないか、担当事務と検討している。

- ・ホームページについて

通販サイトのように、カートに買いたい株を入れ、注文とすることで、MTAが自動的に作成され、それを印刷し押印提出できると、手軽に感じる。

- ・オブザーバーより

- ・事後評価ヒアリングの結果は取りまとめ中であること。第5期は12月を目途に公募開始し、4月にはスタートできるように準備を勧めている。

- ・ゲノム編集等の技術革新によって、すべてをモデル生物として整備しなくてもよくなってきている。ニーズを踏まえ新規のリソースを加えことを検討している。

- ・MTAはご自身を守ることにつながるので重要である。機関として決裁権限をどこまで権限を下ろしているかで検討できるのではないかと。

最後に藤島委員より、第3期及び第4期のNBRPゾウリムシ実施にあたり、謝辞が述べられた。